

「あなたはあなたのままで良いはずなんです」 うーん、良い言葉だな……。そうなんですよねえ、いい「はず」なのですが、なかなか言う、環境って整って無いのが現状ですよねえ。先日の ATAC で中邑先生が言ってた「凹デサイン」足りないくらいが丁度いい。そこに会話が生まれ、コミュニケーション、絆が生まれる……。なんて話を思い出しました。突き詰めて行くと難しい話になって行きそうですが、完璧じゃなくても周りが受容＆フォロー出来れば、みんな幸せに生きて行けるって事です。その為にはまずは理解する事から始めないといけませんよね。「知らない」＝「恐い・関わらない」になりやすいですから。まずは世の中の圧倒的多数な「フラットな意識の人たち」に使えて行く事が大切だとサンフェイスは考えます。興味関心の無い人たちに伝えてこそ啓発です。久田

第 68 回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

ハリとメリ

先日岡山で、自閉症児を育てる会主催の講演会に行ってきました。京都市児童福祉センターの門先生と自閉症スペクトラム当事者の小道モコさんの二人の講演会でした。

最も印象に残ったのは、メリとハリという言葉です。門先生と小道さんは、自閉症スペクトラムのある人の行動の特徴を、「メリとハリ」という言葉で表現していました。これまでは、「できる、できない」、「得意、苦手」、「困っていない、困っている」、「凸、凹」等いろいろな表現で、自閉症スペクトラムのある人の行動を表現してきたように思います。このような表現の場合、「できないこと」、「苦手なこと」、「困っていること」、「凹」などところに視点が当てられがちになり、「できないことはできるように」、「苦手なことは克服できるように」、「困っていることは解決できるように」、「凹のところは埋めるように」という発想になりがちです。「凸と凹」に限って言うならば、おしなべて平らにしたいというのが多くの人が感じるところではないかと思います。しかし、本当にそうでしょうか？できないことはできるようにしなければならないのでしょうか？苦手なことは克服しないといけないのでしょうか？

子どもたちを指導する立場にいる人は、子どもたちの苦手なことに視点を当てて指導することが多くあると思います。できないところや苦手なところがわかりやすいからです。何とかできるようにしたいという気持ちもあるでしょう。できなかったことができるようになると、指導効果を実感することができるでしょう。しかし、一步間違えると子どもたちに大きなストレスを与えてしまうことになるのではないかと思います。繰り返しチャレンジしてもできないまま終わってしまうことがあるからです。

ハリとメリという言葉を使うと、別にメリは気になりません。その子どものことをバランスよく見るができるようになるかもしれません。その子どもにとって大切なことは何かが見えるかもしれません。

小道さんが最後に、「自閉症スペクトラムのある子どもにエールを送るとしたら、どのようなエールですか？」という質問に対して、「あなたはあなたのままでいいはずなんです」という言葉をおっしゃっていました。「あなたのままでいいです。」ではなく、「あなたのままでいいはずなんです。」という言葉が重く心に残りました。「はず」がついているということは、周囲がもっと理解しなければならないということを示していると感じたからです。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013 年より教授に就任。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンバワメント研究所）など